

杏林大学「地(知)の拠点整備事業」

第1回 杏林大学・杏林医学会・三鷹ネットワーク大学共催

市民公開講演会

入場
無料

予約
不要

知っておきたい眼の病気 —よりよい視力を守るために—

日時 平成26年 **5月10日** (土) 午後2時～3時30分

場所 三鷹ネットワーク大学 教室ABC
東京都三鷹市下連雀3-24-3(三鷹駅南口徒歩1分)

プログラム

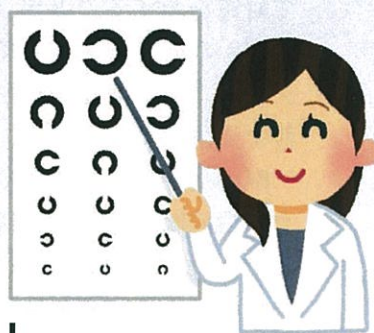
司会 平形明人教授 (杏林大学医学部眼科学教室)

講演1 **「網膜に映し出される全身疾患」**

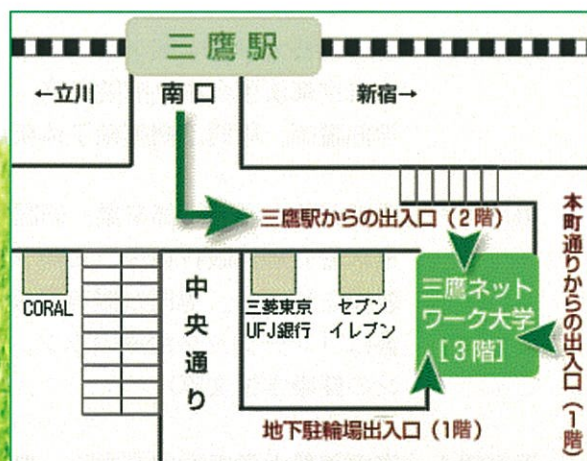
厚東隆志講師 (杏林大学医学部眼科学教室)

講演2 **「最新の白内障手術」**

根岸一乃准教授 (慶應義塾大学医学部眼科学教室)



どなたでもご参加いただけます
お気軽にお越しください



お問い合わせ

杏林医学会 事務局 電話 0422-47-5511(内線3314) e-mail med_soc@ks.kyorin-u.ac.jp



地(知)の拠点

本講演会は杏林大学が三鷹市、八王子市、羽村市との連携で行う
文部科学省「地(知)の拠点整備」事業“杏林CCRC”の一環として開催するものです。

知っておきたい眼の病気—よりよい視力を守るために—

現代社会において情報の90%は眼から入ってくるといわれます。視覚情報が失われると生活に大きな支障が生じ、さらに脳の刺激も減少することで老化が進む可能性もあります。したがって、眼の病気を予防し治療することは、日常生活の維持のためにも老化を予防するためにも重要なのです。

眼はピンポン玉くらいの小さい器官ですが、いろいろな組織で構成されていて、多様な病気が起こります。高血圧、糖尿病、動脈硬化、膠原病、感染症などの多くの全身疾患が眼の病気の原因になります。一方、目の中を検査して、目の中の血管や神経を直接観察することで、糖尿病や高血圧などによる全身合併症の程度を判定することもできます。検査器械が進歩して、目の奥にある光を感じる神経の膜（網膜）の厚さや形を詳細に観察することもできるようになりました。網膜全体を撮影して、そこを栄養する血管の形態や傷み方も記録できます。神経や血管を直接観察して、全身疾患の推測や治療効果を判定することもあります。眼は体の病気の情報を得る窓でもあるのです。

加齢とともに眼の病気は増加します。白内障、緑内障、加齢黄斑変性症などの網膜の中央に位置する黄斑に生じる疾患、高血圧や糖尿病による眼底出血などが代表的な病気ですが、いずれも早期に診断して対策をたてるのが、視力予後に大切です。普段は両目で生活しているので、片目に病気が生じても気づかないことも少なくありません。時には、片目をつぶって片目ずつ見え方に異常がないかをチェックすることは早期発見につながります。片目で見て、歪んで見えたり、視野が欠けていたら、すぐに眼科を受診してください。

眼の病気は手術や薬物によって治療しますが、顕微鏡下で行われる眼科の手術は非常に進歩しています。白内障手術も白内障の程度や種類によって手術時間も異なりますが、患者さんの負担が非常に軽減しました。眼内レンズにも色々な種類があります。角膜や網膜の手術も進歩して、以前には想像できなかった再生医療も実現化に向っています。

今回は、眼底疾患と白内障治療のエキスパートの先生に講演をいただきます。眼と全身疾患の関わりや眼科手術の進歩をご紹介いただくことは、眼科疾患の予防や治療の進歩のご理解に大いに役立つと思います。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

平形明人 杏林大学医学部眼科学（杏林アイセンター）

演者紹介

厚東隆志：慶應義塾大学医学部卒業，同眼科学教室入局し，慶應義塾大学大学院博士課程修了。2007年～東京都済生会中央病院勤務。2008年～慶應義塾大学医学部助教を経て，現在，杏林大学医学部講師。専門は網膜硝子体疾患，硝子体手術。

根岸一乃：慶應義塾大学医学部卒業，同眼科学教室入局。1995年～国立埼玉病院眼科学医長，1998年～東京電力病院眼科科長。1999年～慶應義塾大学眼科講師（兼任），専任講師を経て，現在，准教授を務める。専門は眼科全般，白内障，眼内レンズ，屈折矯正手術，水晶体疾患。主な著書は「レーシック治療のウソ，ホント—近視レーザー手術の疑問点を解消（メディカルサロンの健康学習文庫）。

平形明人：慶應義塾大学医学部卒業後，慶應義塾大学病院，国立東京第2病院，国立栃木病院医長などを経て，米国 Duke 大学アイセンターに留学。1992年～杏林大学医学部眼科学（杏林アイセンター）講師，1997年～助教授，2005年～教授，現在，主任教授を務める。専門は網膜硝子体疾患。また，日本眼科学会評議員，日本網膜硝子体学会理事なども務める。